

「元気な人間」市民懇談会

意見のまとめ



平成13年5月

人間市

1 「元気な入間」市民懇談会の概要について

- 1 目的 本年11月入間市は市制施行35周年を迎え、その式典において「元気な入間」をスローガンとした都市宣言を行います。この都市宣言は、入間市が将来都市像として目標とする「香り豊かな緑の文化都市」実現に向けた、21世紀型の市民参加によるまちづくりを進める道しるべの第一歩として発信するものです。この都市宣言発信に際して、これまで11名で組織した市民委員会と26名で組織した職員オピニオン会議において、都市宣言の意義やそこから始まる「元気な入間」のまちづくりのあり方について検討がなされ、それぞれの会議から提言が出されました。
- 今回の市民懇談会では、それらの提言と併せさらに多くの市民の方々からより多くの意見伺い、都市宣言を真に市民のものとしていくことを目的に開催したものです。
- 2 対象 市民
- 3 期日 5月12日(土)から5月20日(日)までのうち7日間(別表のとおり)
- 4 進め方 この市民懇談会は、各回とも次のようなかたちで行いました。
- (1)「入間のイメージ」
- 参加者の方々に入間のイメージの良い点、悪い点(課題)をカードに記入していただき、それをもとに意見交換を行いました。
- (2)「元気なまちにしていくために必要なこと」
- 元気なまちにしていくうえで、どんなことが大切か、どんなことをしていくべきかについて、意見交換を行いました。
- (3)意見の発表
- 懇談会の最後に参加者から出された意見、提案等を書記が発表しました。

2 参加者の状況

回	期 日	開 催 時 間	会 場	参 加 者 数 (人)		
				総 数	男	女
1	5月12日(土)	14:00~16:00	藤 沢 公 民 館	18	15	3
2	5月13日(日)	14:00~16:00	宮 寺 公 民 館	12	10	2
3	5月15日(月)	19:00~21:00	金 子 公 民 館	8	6	2
4	5月16日(水)	19:00~21:00	東金子 公 民 館	20	17	3
5	5月18日(金)	19:00~21:00	西 武 公 民 館	13	6	7
6	5月19日(土)	14:00~16:00	産業文化センター	18	13	5
7	5月20日(日)	14:00~16:00	黒 須 公 民 館	14	11	3
合 計 参 加 人 数				103	78	25

3 各会場別意見交換の要旨

第一日	期 日	平成13年5月12日(土) 午後2時00分～4時00分
	会 場	藤 沢 公 民 館
	参加者数	18人 (男15人 ・ 女 3人)

= 1班 =

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然環境	加治丘陵やお茶畑など、緑と自然が多い。もっと豊かにしていきたい。 自然環境に恵まれている。(富士山・多摩秩父方面の眺望)
文化・伝統	粕谷儀三氏や万燈まつりなど文化、伝統がある。 地域の伝統的な文化の継承が行われている。
都市基盤	下水道計画が進んでいる。 区画整理などによる基盤整備が活発である。
ま ち	未成熟な都市である分、逆に可能性が多く残っている。
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
自然環境	街中の平地林の緑が、相続とか開発で少なくなっている。 金子・東金子地区の緑と、東部地区の開発の格差が大きい。 25年前入間市に来たときは、満天の星空に驚いた。また、団地の3階から富士山が見えたが、今は見えない。自然との共生が必要と思う。 スプロール化で、緑がどんどん失われている。緑の保護を、市民も一緒に考えていかなければならない。自然の豊かさは、人の心も豊かにする。 川が暗渠となり、川への関わりが減った。
まちづくり 市民参加	市の柱が見えない。(都市対策や計画の実行が遅れている) 市民参加が遅れている。一部の人しか出てこない。若い人たちへの働きかけをどうするか、考える必要がある。 志のある人はいるが、つながっていない。

<p>安心なまち</p>	<p>将来に不安がないこと。くらし、福祉、教育、環境にわたり充実されることではないか。不安が解消されることによって、人は元気を取り戻す。だれでもが歩ける道を整備してほしい。体の不自由な人、運動の出来ない人も安心して歩ける道。赤ちゃんの手をつないで歩ける道。みんなと仲良くなるのが元気のもと。</p>
--------------	---

= 2 班 =

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
<p>自然環境</p> <p>ま ち</p> <p>人づきあい</p> <p>住民活動</p> <p>産 業</p>	<p>狭山丘陵や加治丘陵など緑が多いまちである。</p> <p>自然の良さのなかでも、緑と清流がすばらしい。</p> <p>お茶畑が緑の良さをシンボライズしている。</p> <p>犯罪が少ない静かなまちである。</p> <p>これからますます発展するまちである。</p> <p>交通の便が良いまちである。</p> <p>住民の多くが心優しい。</p> <p>所沢がやや都会的なのに比べると、入間はハート to ハートという感じがする。</p> <p>自治会が良く機能している。</p> <p>新住民が参加できる「場」がある。</p> <p>他に誇れる地場産業として、お茶産業がある。</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
<p>自 然</p> <p>ま ち</p>	<p>たくさんある自然が開発等により消されている。</p> <p>藤沢区画整理により、平地林や屋敷林といった緑が少なくなってしまうている。</p> <p>畑も重要な緑の部分であるのに雑地になっているところが多い。</p> <p>東京に近すぎる。</p> <p>国道でまちが分断されている。</p>

住 民	人間のアイデンティティのようなものが欠如している。 歩道整備が遅れている。 防犯灯が少ない。 交通の便、特にバスの便が悪い。
産 業	旧住民と新住民との間に意識の差がある。 住民の交通安全に対する意識が低い。 狭山茶のPRが不足している。 お茶産業からの撤退を考えている人や後継対策に悩んでいる人が多い。 元気な地元企業が少ない。
行 政	平地林の開発に対して有効な施策がない。 情報公開が進んでいない。

元気なまちにしていくために必要なこと

分 野	項 目
住 民	人と人との積極的に触れ合い、挨拶をかわしたり、歌をくちずさんだり、声をかけあったりして、笑い声の絶えない明るいまちにする。
コミュニケーションづくり	住民各々が、人間市の主権者であり、行政とともに自治体を作り上げていくという自覚と責任を持って行動する。 住民としての自覚に目覚め、行政への参画をすすめる。 団体活動や地域活動の機会を毎日のように持ち、活動を拡大するとともに大人どおしが交流をはかる。 子どもたちの笑い声が絶えないまちも元気なまちであろうから、地域で安全な「場」を確保するとともに、大いに気配りをする。 世代間交流の機会を増やし、特に高齢者と幼児が保育所等で交流することにより物事の良し悪しを教え、犯罪を少なくすることができる。 小さい単位でのコミュニティの活発化をはかる。 ベッドタウンとしての住民がいかにしてまちづくりに入ってもらおうかを考える。
ま ち	これからのまちは「安全」・「安心」がキーワードの1つとならなければいけない。

行政	<p>人口が増加するように計画をし、それが消費の活発化につながり元気なまちになっていくようにする。</p> <p>こどもと親が交流をはかる機会として、文化施設を活用する。</p> <p>土曜日等の公共施設を開放する。</p> <p>若い人が多いまちは元気なまちなので文化施設等の青年割引他で定着化をはかる。</p> <p>65歳以上の人々の元気を引き出すような施策として、ボランティア活動への参加促進を促す。</p>
産業	<p>入間市に住んでいて誇れるようなものを作り出したり、現在のお茶産業等の育成を考える。</p>
その他	<p>「日本一」の入間市をPRする。</p> <p>例えば、救急隊の心肺蘇生率は現在は秋田が日本一であるが、入間市では全ての場所に救急隊が5～6分で到着することができる地理的条件があるので日本一になれる可能性がある。</p> <p>入間市の様々な現状をたくさんの人に知ってもらうことも大切である。</p>

第	期 日	平成13年5月13日(日) 午後2時00分～4時00分
二	会 場	宮 寺 公 民 館
日	参加者数	12人 (男10人 ・ 女 2人)

人間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然環境	<p>お茶畑、加治丘陵、狭山丘陵等、緑と田園地帯の風景が良い。この緑豊かな自然環境を残していきたい。</p> <p>宮寺の自然の在り方は、大変「濃い」ものがある。先人たちが愛しみ手入れしてきた価値ある存在だ。責任をきちんと果たしていかないと、自然の良さもやっかいものになっていく。</p> <p>緑が多く、自然環境がよい。自然環境をさらに良くしていきたい。</p> <p>宮寺は土が残る地区で、自然を利用したまちづくりの可能性はある。牧畜等の肥料からバイオガスも生み出せ、自然を生かしたモデル地区が出来るのでは。</p>
人間関係	<p>高齢者の外出が活発で、交流の場が多い。</p> <p>人と人のふれあいが良いまち。大切にしていきたい。</p>
文化施設	<p>博物館（アリット）が出来たこと。</p>
市職員	<p>市職員の勤務態度、接客態度が良い。</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
環 境	<p>焼却場があり、大気汚染が気になる。</p> <p>養鶏場、養豚場があり、臭いがある。しかし、われわれの生活には必要なもの。</p>
まちづくり	<p>宮寺は、町場と比べて基盤整備が遅れている。人口比や予算面があるだろうが、平等にしてほしい。</p> <p>全体の核がはっきりしていない。個性がないまち。</p> <p>交通の便が悪い。気持ち的に所沢向きの人が多い。</p> <p>下水道が遅れている。雨水・排水対策が未整備。</p> <p>行政との対話が不足しているのではないか。</p>

第	期 日	平成13年5月15日(火) 午後7時00分~9時00分
三	会 場	金子公民館
日	参加者数	8人 (男 6人 ・ 女 2人)

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然環境	<p>緑は人の心を豊かにする。さとやま計画は貴重な試みであり、心の交流につながる場となると思う。</p> <p>茶畑は良いがいつまでも存在できるか心配である。農地が残り、拡大するようになることを望みたい。</p> <p>霞川、加治丘陵には愛着がある。桜山展望台周辺を桜の山にしてはどうか。是非、実現したい。川沿いに花を植えるような試みもしたい。</p> <p>湧き水がある。加治丘陵の湧き水を霞川に流し、河川の清流を。</p> <p>桜山展望台から見た緑は素晴らしい。</p>
歴 史	<p>歴史の重みは何事にも変えがたい。金子十郎など地域の歴史を生かし、大事にしたい。</p> <p>中学生が「金子」という地名の由来を知らない状況がある。地元のことを知らないということは、問題がある。</p>
気 候	<p>気候が温暖で人柄が穏やかである。</p>
人と人の交流	<p>人と人との交流が良い状態にある。</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
河 川	<p>霞川の護岸工事に問題を感じる。川におりられるようにする必要がある。</p>
自 然	<p>自然は大事であるが、それを活用していない。</p>
まちづくり	<p>まちづくりが市中央に偏りすぎている。身近なところで遊べる空間があることが必要である。(グラウンドや広場)</p>
コミュニティ	<p>市の核がはっきりしていない。市の施設配置に一体的なまとまりがない。</p> <p>古くからの人と新しい人との和が難しい。</p>

公共施設について	学校のバリアフリー、フェンス、コンクリートの建物が何か気になる。 子供たちのためにも図書館の時間延長を検討してもらいたい。駅はまちの玄関であり、バリアフリー対策をしていくべきである。
----------	--

第 四 日	期 日	平成13年5月16日(水) 午後7時00分～9時00分
	会 場	東金子公民館
	参加者数	20人 (男17人 ・ 女 3人)

= 1 班 =

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然環境	<p>里山が手入れされて保全されている。これ以上無くさないでほしい。残された平地林が、相続で無くなるのが心配だ。</p> <p>加治丘陵・狭山丘陵の緑が多く、さらに自然を保護していこうとする、市の取り組みがある。しかし、その保護は地球単位で行っていかなければだめだと思う。市町村単位でなく、国や県全体に働きかけていってはどうか。また、一人一人が残したいという気持ちに変わらないと守れない。自然環境といっているが、相続等実情は裏腹だ。</p> <p>山並みの風景と、茶畑のある環境が幸せである。</p>
歴 史 まちづくり	<p>歴史のあるまち、探訪するのに良い。</p> <p>入間市駅前が整備され、活気がある。</p> <p>市政モニター・出前市長室等市民参加をさせてくれ、前向きに行政に取り組んでいること。</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
まちづくり	<p>町に魅力がない。若い世代の人が地域から出て行くのは、“居たい”とが“戻りたい”と思える気持ちが出てないのでは。</p> <p>市街地と調整区域で、差が広がりつつある。</p> <p>まちづくりが一部に集中しており、そこにお金をかけすぎている。</p> <p>公的な交通機関が不足している。</p>
自然環境	<p>昔からの鎮守の森等が破壊されてきている。</p> <p>茶畑の消毒が問題である。</p>

= 2 班 =

人間市のイメージについて

分 野	良 い 点
<p>人間関係</p> <p>文化活動</p> <p>自 然</p> <p>産 業</p>	<p>素直で穏やかな人が多く、「よそ者」にやさしい土地柄である。</p> <p>新旧住民が協力的であり、公民館活動も活発である。</p> <p>市民活動の素地はあるので、これを支える仕組みを考えるべきである。</p> <p>自分達で主体的に活動する素地はある。これを仕組みとして定着させることが、「元気」につながる。</p> <p>現にある「いいもの」(新久はやし等を支える人々の心意気と仕組み)を次世代に伝えることが大切。</p> <p>緑と丘陵に恵まれており、自然が多く残っている。加治丘陵の公有地化は進めるべきである。なお、公有地化したものの活用も同時に考えるべきである。</p> <p>里山と緑、水辺、茶畑等の自然を保全し、永続させる仕組みが必要。</p> <p>他地域に誇れる産業がある。(お茶・繊維産業等)</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
<p>地域交流</p> <p>交通</p> <p>まちの活気</p> <p>市民活動</p> <p>自然環境</p>	<p>地域の生活の中で、協力しあうことが少なくなっているように思う。地域づくりについて、再度考えるべきである。</p> <p>市内各地域間の連帯が薄いように感じる。</p> <p>中心的なものがない。万灯祭り等もより全市的な実施を考えるべき。</p> <p>地域の交流の中に若い人が入りづらい雰囲気がある。</p> <p>市の中心街の交通アクセスが悪く、道路も整備されていない。若い人が定着しない傾向があるのでは。</p> <p>中心街に活気がない。まちの活性化は商店街の活性化からである。商店街にも高齢化が進行し、元気がないように感じる。</p> <p>市民活動の小集団をまとめる「しくみ」がなく、「同好の士」による活動は多いが、広がりがいい。市がコーディネートし、ネットワークとして組織したらどうか。</p> <p>緑は豊富だが、河川の汚れが気になる。</p> <p>県央道側道に停車しているトラックの排気ガスが気になる。</p>

元気なまちにしていくために必要なこと

分野	項目
<p>産業</p> <p>環境</p> <p>情報発信</p> <p>運動の展開方法</p>	<p>それぞれの産業を着実に発展させる。</p> <p>狭山茶を通じたまちづくりを。観光資源を有効に生かすためにも、博物館～茶畑～加治丘陵～仏子駅へのアクセス道路を整備し、狭山茶を活用したまちづくりを。</p> <p>きれいな街づくりに努める。</p> <p>元気の基の空気・水を安全なものにして、健康な市民生活を守る。</p> <p>人間だけを対象にしてはだめ。周辺の地域と一緒に考え、入間市から発信することが重要。</p> <p>自分達のまちは、どんな「まち」であるかを考えて、自分達の「まち」をつくるのが「元気」につながる。</p> <p>相手の立場を理解し、共同作業を通じて一体感を醸成すること。</p> <p>若い人が地域の行事に参加しやすい雰囲気をつくることから始めたい。</p> <p>家庭・隣組・自治会・全市との広がりの中で、対話を大切に。</p> <p>個人・商店・会社・行政も自立することが大切。他を思いやることも自立であり、活力はそのようなことから生まれる。</p> <p>多くの人に参加できるイベントを考える。</p> <p>各種団体の若い人（30～40才台）を中心に「元気入間ネットワーク組織」をつくり活動してもらい、そこから発信する。</p> <p>人と人との交流が活発になることに尽きる。まちの活性化に必要なものは、「若者」・「よそ者」・「ばか者」であり、若者のパワー、よそ者の知恵、ばか者の情熱が必要との寓意である。例えば、20歳代まで、40歳代まで、それ以上と各世代に分けて具体的な行動を考えることも必要。</p> <p>市内の私的・公的諸活動を元気な人間づくりの全ての計画にリンクさせていき、市内・市外への広報活動を強化するとともに、外国人に対する受け入れ態勢も整備する。</p> <p>ボランティアは自分のために行うこと、との認識が大切。</p>

第	期 日	平成13年5月18日(金) 午後7時00分~9時00分
五	会 場	西武公民館
日	参加者数	13人 (男6人・女7人)

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然環境	自然が身近にあり、遊べる川として入間川や緑のある山、さとやまとしての加治丘陵がある。
ま ち	お茶とみどりと川というイメージが強い。 万燈まつりに代表されるように、文化等で四季の移り変わりが楽しめるまちである。 大きな犯罪のない安心して暮らせるまちである。 ゴミの分別が良く出来ている。
分 類	悪 い 点 ・ 課 題
住 民	地区の代表の意見が強い。 市民が横のつながりに欠けている。 新住民と旧住民のつながりに欠ける。(特に新住民がなじめない。) 地域の人々が築いてきた「文化」の受け入れ方がうまく出来ていない。 入間川等への住民の関心が薄い。
行 政	市長をはじめおとなしい職員が多い。 市と市民の距離がある。 市としてのまちづくりの方向性がつかみにくい。 市報等での市民への呼びかけが足りない。 市の考え方と住民のまちづくりの考え方に大きなギャップがある。
ま ち	自衛隊の基地があることが良くない。 歩道整備が遅れていて、子どもたちの通行等に安全面での配慮が足りないと思われる。

元気なまちにしていくために必要なこと

分野	項目
<p>コミュニケーションづくり</p> <p>自然</p> <p>住民</p> <p>行政</p>	<p>元気な人間づくりには、次世代の方々の参加を呼びかけることが大切で高齢者はその受け渡し役を買ってであればよい。</p> <p>高齢者の元気が目立つので、子ども時代の良かった点等を継承するための世代間交流を実現する。</p> <p>相手の立場や違いを認め合っていくことから元気な人間の共通コンセプトを積み上げていくことが大切である。</p> <p>さとやまにツツジを植えてもとの遺産を取り戻す運動を市民レベルで実施していく。(現在も実施中。)</p> <p>西武地区には、仏子の河原や桜堤、秩父までの遠景など素晴らしい自然がたくさんあることを再認識し、自然を利用したイベントなどを実施する。</p> <p>自然を大切にする心を持ち、きれいなままにする。</p> <p>地元の人も新しい住民も「居場所」ができることにより『ふるさと』になっていく。</p> <p>行政を巻き込んで何か市民が動くことの大切さを認識して地域として声をあげるパワーが不足しているので、声をあげる努力をしていく。</p> <p>新しい住民が入っていくことができる「場」をつくっていく。</p> <p>地元にいる時間の過ごし方や関わり方のなかで検討する。</p> <p>地域のなかでの憎まれ役になる人が必要で、特に若い人々に対して声を発したり、手を出したりしていく高齢者の存在が必要である。</p> <p>住民レベルでのまちづくりを検討し、実践していく組織をつくることが大切である。</p> <p>地域の人々が小、中学校のクラブ活動などに指導者として参加する。</p> <p>元気印の人を発見し、支援し、育成していくことが重要である。</p> <p>元気なことも親子で楽しめる公園づくりをすすめる。</p> <p>元気なまち人間のシンポジウムを実施する。</p> <p>市民への情報提供を益々拡大していくことと、各種のネットワークを確立する。</p> <p>元気な高齢者のためのボランティア活動の「場」をつくる。</p>

	<p>教育委員会と地域と学校の連携を深め、それぞれの役割を確実に果たす。 学校と老人施設を一緒にしてみたらどうだろうか。 安全できれいなまちにする。</p>
--	--

第 六 日	期 日	平成13年5月19日(土) 午後2時00分~4時00分
	会 場	産 業 文 化 セ ン タ ー
	参加者数	18人 (男13人 ・ 女 5人)

= 1 班 =

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
ひ と 自 然 ま ち 文 化 その他	<p>若い家族が多いことと高齢者が元気にがんばっている。</p> <p>グループ活動のメンバー同士は大変仲がよい。</p> <p>隣近所のつきあいが親しくできている。</p> <p>都会からの緑の入り口、グリーンフロントである。</p> <p>緑豊かであり、元気な入間のキーワードになるものである。</p> <p>狭山丘陵と加治丘陵という豊かな緑の財産がある。</p> <p>入間市の中心としての「豊岡」がある。</p> <p>都心へのアクセスがやすく、反面、田舎ぐらしもできる両面性がある。</p> <p>万燈まつりや太鼓セッション等への協力体制がよくできている。</p> <p>他地域へのアピールや他地域からの関心度の高い文化活動がある。</p> <p>まちづくりのキーワードになっている。</p> <p>小さな文化としての公民館活動が盛んである。</p> <p>入・・・in , into 間に入る 間・・・space (宇宙) 入間には役割がある。 国家と地方、人と人之間、過去と未来の間に入る</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
ひ と ま ち	<p>閉鎖的、慣習的な人が多く、交流が少ない。</p> <p>若い家庭人が地域に関心を持っていない。</p> <p>中途半端なまちといった印象がある。</p> <p>駅前が暗い。</p> <p>人口比率によると、駅の数が多すぎる。</p>

行政	<p>車が通り抜けるだけのまちである。</p> <p>車がなくては不便なまちである。</p> <p>公的な医療機関がない。</p> <p>積極性に欠ける運営である。</p> <p>行政の協力を「冷たさ」を感じる。</p> <p>定着住民の意見を吸い上げるシステムや「場」がない。</p>
----	---

元気なまちにしていくために必要なこと

分野	項目
パートナーシップ・協働 住民 世代間交流 行政	<p>市の認知していない住民活動の存在を認知するしくみを確立する。</p> <p>参加したい人々へのネットワークづくりが必要である。</p> <p>まちづくり協議会によるパートナーシップ協定をつくる。</p> <p>一人一人が挨拶を励行し、コミュニケーションづくりをする。</p> <p>一人一人の活躍の「場」を確保することに努める。</p> <p>一人一人がまちづくりに参加する。</p> <p>高齢者の活躍の場を確保していくことが生きがいの再発見につながり、特に幼児や青少年との触れ合うことで今より少し元気になる。</p> <p>こどもを叱れない大人が多いので、高齢者がそうした視点で子どもを育成していくことが大切である。</p> <p>市報等での情報公開や情報交流をすすめ、市民活動を認知したり、参加促進をはかる。</p> <p>HPに掲示板をつくり、市民の意見を吸い上げる。</p> <p>市民の意見を聞くように職員が公民館のロビー等でお茶を飲みながら話をする。</p> <p>加治丘陵にウォーキングルートをつくる。</p> <p>元気に関して弱い人々の意見を集める工夫をする。</p> <p>職員の意識を改革する</p> <p>まちづくりの「場」を確保して、ネットワーク化をはかる。</p> <p>まちづくりの法制整備をする。</p> <p>学校と地域の相互のつながりを強化する。</p>

= 2 班 =

入間市のイメージについて

分野	良い点
自然環境 狭山茶 文化活動	<p>加治丘陵、茶畑が入間の魅力である。この環境を後世に残す努力をすべきである。</p> <p>雑木林を生かして子供たちが遊べる場を、知恵を出して創っていきたい。</p> <p>土をいじることで農家の人の苦勞を知った。</p> <p>緑が多く安らぎを感じる。入間に帰ってくるとほっとする。これからもこの環境を残したい。</p> <p>147000 人規模の都市としては緑が多く残っている。</p> <p>あるがままの自然として残したい。区画整理地内の緑はあるがままの自然とは言いがたい。</p> <p>入間川の水辺（手を加えない自然）は、憩いの場として良い。</p> <p>さとやまを大切に作る運動が少しずつ広がっているのは良い。</p> <p>狭山茶の発展は産業の活力源となる。</p> <p>文化活動が活発である。市民が主体となって文化活動を行っているという印象がある。</p> <p>公民館が 14 館、アリット、アミーゴなど生涯学習施設は整っている。反面、うまい利用方法、効果的に使う方法を工夫したい。</p> <p>旧市街地が区画整理できれいになったので、今後に期待したい。</p>
分野	悪い点・課題
商店街 まちづくり 交通	<p>駅前商店街がまだまだ寂しい。活気を感じられない。</p> <p>大きな商業施設中心のまちづくりではなく、みんなで話し合って人の集まる商店街としたい。</p> <p>区画整理を進め、よいまちづくりを進める。</p> <p>区画整理に整備のめどを早くつけてもらわないと商業者としては不満である。</p> <p>市外との交通は便利だが車依存型の生活は見直したい。</p>

元気なまちにしていくなために必要なこと

分野	項目
<p>コミュニティづくり</p> <p>市職員と市民が話し合う場</p> <p>青少年を育てる</p> <p>ボランティア</p> <p>きっかけとしてのあいさつ</p> <p>世代間交流</p>	<p>学校、さとやま、神社など地域に昔からあるものをコミュニティの場として活用する。</p> <p>人と人とがしゃべれる間柄になること、そのような場が必要。</p> <p>まちの見た目のきれいさよりも人と人とが仲良く生活できることの方が大切であると思う。</p> <p>まちづくりについて市民と市職員とがプラス指向で話し合う場をつくることで、まちの将来を考えることが必要と思う。市の政策をうまく進めるうえでも市民と職員の協力は必要だと思う。</p> <p>街中などで、マナーの悪い青少年を注意しない人が殆んどである。注意するのは怖いことだが、私はこれまで勇気をだして注意してきた。悪いことは悪いと言える人になるべきである。</p> <p>ボランティアはあくまでも自主的なものであり、その仕掛けを考えたい。ボランティアは人を良くし、まちを良くしていく力となる。イメージとしてあげれば、青少年が公衆トイレを掃除するような状態となること。</p> <p>自分の子供が自分に対しあいさつをしない。どうしてかと考えたら自分がしていなかったことに気付いた。自分から進んであいさつをすることにしている。</p> <p>宮寺地区を歩くと初めての人でも通る人からあいさつがくる。たいへんうれしく思い、この地区が好きになってしまった大きな理由となっている。あいさつは親が教えるものである。</p> <p>世代間交流は「これ」といった決め手があるわけではないと思う。知恵を出して考えるべきだと思う。14年度から学校が週休2日制になる。大人のサークル活動と学校の子供との交流が考えられる。自分は自分の趣味のためにやっていたミニテニスを通じて子供たちとの交流が始まった経過があり、自分の喜び、生きがいの一つになっている。</p> <p>年寄りの知識、経験を語り伝えたり、生かしたりする場があれば、生きがいにつながると思う。老いた段階で、いろいろな意味で無視されるようなことはさびしいことである。</p>

<p>伝統行事</p>	<p>これからは、特に、老いてからは地域のなかで活動できることが前提であるだろう。</p>
<p>あいさつ</p>	<p>伝統行事や祭りなど昔からあるものを残し、伝えることがコミュニティづくりの大きい力となる。人と地域のことを大切にすることが大切。</p>
<p>元気の具体例</p>	<p>近所との言葉のない生活は決して良い状況ではない。あいさつがあるかないかで、そのまちの明るさがわかる。</p> <p>もてなしの心が感じられるまち</p> <p>街中の花、植栽、ハンギングポットなどのあるまち・・・そんな景観のあるまちが望ましい。</p> <p>「元気」のある人のパワーを生かせるようなしくみ、プログラムを作ってみてはどうか。</p> <p>自転車利用は健康にも環境にも良い。自転車がうまく利用できるようなまちはきっと良いまちになる。そのためにもサイクリングロードがあればよいと思う。</p>

第	期 日	平成13年5月20日(日) 午後2時00分~4時00分
七	会 場	黒 須 公 民 館
日	参加者数	14人 (男11人 ・ 女 3人)

入間市のイメージについて

分 野	良 い 点
自然・緑	<p>5月（お茶の時期）及び10月頃に入間市の自然の豊かさを一番感じる。他の地域から訪れる人から羨ましがられる。</p> <p>母親のお乳のにおいは「お茶と麦わら」であった。大切にしたい。</p> <p>仏子から新久に抜ける加治丘陵のサイクリングロード沿いの道がよい。ここを散歩していると挨拶が返ってきて気持ちが良い。</p> <p>自然を残すとともに、アクセス（遊歩道・自転車道）の整備も必要である。</p> <p>住居が緑に囲まれているので、「香り豊かな緑の文化都市」との将来像はすばらしい。</p>
コミュニティ	<p>高倉のおはやし・祇園太鼓が盛んである。万灯祭りも地についてきた。</p> <p>新しく越してきた人に温かみのある街であると感じた。</p> <p>各地区の地域特性があり、伝統的行事が残っている。</p> <p>高齢者が生き生きとしているように感じる。</p> <p>お茶の文化があり、会合に参加するとすばらしい人がたくさんいる。</p> <p>穏やかな人が多い。</p>
交通	<p>都心に近く、買い物をするには便利な所である。一方、市内の交通循環が不便である。</p>
分 野	悪 い 点 ・ 課 題
地域交流	<p>マンションで1・4・7階にしかエレベーターを設置しないなど、日本の建築がコミュニティを阻害している。</p> <p>自分の近所は緑が少なく（狭山市・所沢市との市境付近）隣どおしの付き合いも少ない。3市合同で緑を残す努力を。</p>

<p>生活環境</p> <p>その他</p>	<p>新しくできたサラリーマンが多い地域では、コミュニケーションが少ない。</p> <p>旧住民の旧来意識が根強く、新住民の無関心が強い。</p> <p>身体障害者にとって住みづらい街である。(道路・駅等)</p> <p>都市計画の中で、道路のバリアフリー、家の中のバリアフリーも含めて考える必要がある。そのためには、市の行政を縦割りではなく、横から見ること必要である。</p> <p>個人の知識を生かしきれていない。サラリーマンの定年後の人々の知識を生かす工夫を。</p>
------------------------	---

元気なまちにしていくために必要なこと

分野	項目
<p>市民と行政の協働のためには。</p> <p>高齢者・少子化</p>	<p>行政がやってくれるのを待っている時代ではない。住民から積極的な働きかけをすべきである。「豊かさとは何か」を考え「甘えの構造」を助長することなく、サービス過剰にならないことが大切。</p> <p>情報の伝達方法を広報誌等の紙媒体のみに頼ることなく、インターネット・Eメール等の電子媒体の工夫を。</p> <p>平地林等に関して、住民のトラスト運動を積極的に展開すべきである。市側の情報をできるだけ多く・効果的に伝えることの方法を検討すべき。市政に参加する市民を増やすことがまちの元気につながる。無関心層に関心を持たせることが、まちの元気の原点である。</p> <p>若い人が安心して子育てできる環境(単なる自然環境だけでなく、財政的援助等を含めた総合的な環境の意)の整備が両親の元気・高齢者の元気につながる。エンゼルプランの計画管理を市民が見守るべき。</p> <p>65歳以上は一律「高齢者」として、ひとくくりにされている。高齢者といっても年齢構成は幅が広い。現在の高齢者福祉は、「ゲートボール」等の非生産的活動が多い。働ける高齢者が社会進出できるような環境づくり、非生産的なものでない活動の場の提供が必要である。</p>

<p>観光資源・財政</p>	<p>定年前のサラリーマンに対して、地域理解と本人の将来の生きがいづくりのための講習を開催したらどうか。</p> <p>市の財政の将来を考えることも必要。市の財政が元気にならないと、まちも元気にならない。例えば、万灯祭りを観光資源化する方策（イルミネーション）やティーロードの有効活用（通勤時間帯の運行）など、お金を生み出す工夫をすべきである。</p> <p>まちをよくする市民活動に資金援助をする「江戸川みらいバンク」というNPOがある。金銭的視点は重要。</p> <p>水戸偕楽園の観光ガイドを高齢者ボランティアで行っていた。品のよいイメージで好感がもてた。このような発想が必要である。</p> <p>市外の人に関心を持てば、市民も関心を持つようになる。ウォーキングロード等の整備を。</p>
<p>緑・自然</p>	<p>緑のあるまちのイメージからも「里山」は重要。早く市のものにする必要がある。</p> <p>自然と人間空間の境では、人間にとって不都合なこともある。これを回避して自然のよいところだけを享受しようとしても無理である。自然と向き合うには、それなりの「覚悟」が必要だということも理解して自然に接するべきである。</p>
<p>その他</p>	<p>身近な自然を楽しむため、黒須から仏子に向かって遊歩道の設置を。</p> <p>人間市の遅れている部分（歩道・交通・医療等）をどのように解決していくのかが、今後の課題である。</p> <p>各地区にある伝統行事等に地域の人が積極的に参加できるようにすることが、元気につながる。</p> <p>人と人とが出会い・話をする場をどう築いていくかに尽きる。</p> <p>大人も子供も元気な「あいさつ」のできる市民になるようにしたい。</p> <p>市内の歩道のバリアフリー化。</p> <p>黒須運動公園等の施設に車を入れない安全な施設にすること。</p>